

研究テーマ：子ども食堂の現状と課題

子ども食堂とは…民間のボランティア団体などが主催している子供が一人でも行ける無料または低額の食堂。現在、玉村町には5団体6か所あり、月1回の割合で開催されている。

玉村町の子ども食堂の団体

団体名	代表	子ども食堂の名称	子ども食堂の場所	利用 定員	開設 年月
(特非)おたがいさま	三友美恵子	まちなか de ごはん	まちなか交流館2階	20人	H31.3
		まちなか de ごはん IN 健森	玉村町健康の森児童館	10人	R6.9
JOYクラブ	関口信子	ジョイキッズキッチン	箱石公民館	20人	R3.5
おはよう!! たまたまごはん	砂川ひとみ	おはよう!!たまたまごはん	上之手公民館	20人	R4.9
よつば介護支援 センター	高橋敬子	キッチンぷう〜	就労継続支援(B型) カボック	10人	R1.7
オリーブの会	郡 章江	笑顔の森ふれあいこども食堂	ふれあい交流センター	20人	R8.4



活動を支える支援

子ども食堂は、公的
と民間による支援があ
る。公的支援とは、子ど
も食堂の運営に必要な経
費（保険料や検便検査
等も含む）を対象に、上
限2万4000円（年間）
の補助金を支給するもの
や開設に必要な経費を

議会の視点

子ども会の減少、高齢者の孤立、
地域内における人間関係の希薄
化など、多岐にわたる地域課題の解決に
も資する極めて重要な取組であると高く
評価する。今後、安定かつ継続的に発展
するためには、行政の後押しが不可欠。
フードバンク等の公的組織との連携強化
や、運営費補助の拡充をはじめとする、
公的支援のさらなる拡充を強く期待する
ものである。

安定かつ継続的に発展するためには

10万円補助する等がある。ほか、町のフ
ードバンクが一般企業との連携により、食
材の提供等で重要な役割を果たしている。民
間支援では、NPO法人むすびえによる「こ
ども食堂スタート応援助成プログラム」や、
太陽誘電株式会社等による年末義捐金等の
支援、農家や小規模事業者等からの食材の
寄附が大きい。



町HP
「玉村町の子ども食堂を
ご紹介します」

「多世代にわたる地域交流の場」として

委員長 松本幸喜 副委員長 井上景子 委員 川端悟・笛木美登利・高橋茂樹・浅見武志

民生
文教
常任委員会

研究テーマ：町農業を支える水利施設の現状と課題



起伏ゲート等を調査。農業用水の安定した送水には不可欠（樋越堰）

町農業を支える水利施設の概要

町内の農業用水は、利根川南の地域が
天狗岩用水、北の地域が広瀬桃木両用水
によって供給されており、約671ヘク
タールの水田が受益地となっている。各
水系の基幹水利施設である榎町堰、第一・
第二統合堰、樋越堰、葦塚堰などは、長
年にわたり町の農業基盤として重要な役
割を果たしてきたものの、令和6年度に
実施した機能診断では、一部の施設にお
いて機能低下が確認されている。利根川
から天狗岩用水、広瀬桃木両用水へ送水
する坂東大堰の更新工事も進んでおり、
受益自治体として町も負担金を支出して
いる。かんがい時期の全量送水は、毎年
6月上旬から9月下旬まで行われ、各堰
の管理は水利組合が担っている。

榎町堰（高崎市上滝町）ではスライドゲ
ートや取水ゲートの状態を確認し、樋越堰
（前橋市房丸町）では起伏ゲートや取水ゲ

議会の視点

老朽化が進む中、補修により機
能を維持している点は評価でき
る。一方、草木の繁茂や土砂の堆積が一
部にあり、維持管理の負担増が課題とし
て浮かび上がった。計画的な更新・補修
を進めるとともに、土地改良区や水利組
合との連携を強化し、用水路の維持管理
については補助制度の活用も含め、持続
可能な体制の確保を求めたい。

計画的な更新と適切な管理体制を

ト、操作小屋などを調査した。榎町堰は
築造から42年、樋越堰は46年が経過して
いる。今回樋越堰は更新を行ったが、榎
町堰は老朽化が進む中で補修の必要性が
高まっていることが分かった。

安定した送水を維持するためには、計
画的な更新と適切な管理体制が不可欠で
あり、農業用水が「当たり前に届く」には、
こうした基幹施設の確実な機能が支えと
なっていることを実感した視察となった。

農業用水が

「当たり前に届く」ためには

委員長 堀越真由子 副委員長 峯岸敬一 委員 嶋田由紀子・羽鳥光博・備前島久仁子・月田均

総務
経済
常任委員会